



## 長野県No.1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

### ◆生育状況と当面する作業について

本年は、結実が良好であるため、初期肥大を促すため、摘果等が遅れないよう進める。

また、せん孔細菌病は、現状発生は少ないが、安心せず、枝病斑の除去は徹底する。

1. 5月末頃より、硬核期となっていく。生理的に不安定な時期となるため、核障害の低減のため、急激な摘果・新梢管理にならぬよう十分注意する。
2. タンポポ等はミカンキイロアザミウマの発生源になるので除草を徹底する。
3. 配布(12月)されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。着果量が多く、摘果に時間がかかる場合は、樹が衰弱しやすいので特に活用を考慮する。

### ◆かん水の実施について

この時期は、平年並みの降水量でも、不足する時期となるため、積極的にかん水を実施する。干天が続いたら10日程度に20mm程度、又は7日程度に15mm程度のかん水を行なう。

※10aに1mmのかん水をするには、水1,000ℓが必要です。樹冠下に集中して行う。

※目安として、かん水ポンプ口径インチ半を利用し、10a当り2時間程度。

### 【もも薬剤防除】

#### ◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期:5月25日(土)～5月29日(水)

《実際散布日記入 月 日》

2. 調合量:水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
トレノックスフロアブル	200ml	黒星病	7日前
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	21日前
㊟オリオン水和剤40	100g	アブラムシ類・モモハモグリガ・カイガラムシ類・ケムシ類	14日前

### 【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

#### ◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期:5月25日(土)～5月29日(水)

《実際散布日記入 月 日》

2. 調合量:水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
トレノックスフロアブル	200ml	黒星病	30日前
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	28日前
㊟オリオン水和剤40	100g	アブラムシ類・モモハモグリガ・カイガラムシ類・ケムシ類	21日前

3. 散布上の留意事項

①極早生品種 (アームキング等) は収穫開始日にかかる可能性があるため、マイコシールド、トレノックスフロアブルを散布する場合は、散布を早めに終了させる。

## 【第6回薬剤散布もも・ネクタリン薬剤防除共通】

1. 散布量:10a当り⇒500ℓ以上

2. 散布上の留意事項

- ①うどんこ病の発生が心配される園は、コロナフロアブル 400 倍(水 100ℓ当り 250ml)又はイオウフロアブル 500 倍(水 100ℓ当り 200ml)を加用散布する。
- ②固着性展着剤アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍(水100ℓ当り33 ml)を使用してもよい。ただし、最後に混用する。
- ③マイコシールドに代えてクプロシールド 1,000 倍(水 100ℓ 当りに 100 ml) + クレフノン 100 倍(水 100ℓ 当りに 1000g)でもよい。クプロシールドには薬害防止のためクレフノンを必ず加用する。展着剤はササラ3,000 倍(水 100ℓ 当りに 33ml)がよい。白く汚れやすいので周囲への飛散に注意する。

## 【もも薬剤防除】

### ◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期:6月8日(土)～12日(水)

《実際散布日記入 月 日》

2. 調合量:水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
トレノックスフロアブル	200ml	黒星病	7日前
㊦ イカズチWDG	66g	モモハモグリガ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	21日前

3. 留意事項

- ①マイコシールドは収穫前日数が長いいため、収穫時期の近い早生種は㊦デランフロアブル 600 倍(水 100ℓ に 166ml・もも 7 日前)に代えて散布する。

## 【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

### ◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期:6月8日(土)～12日(水)

《実際散布日記入 月 日》

2. 調合量:水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
㊦ デランフロアブル	166ml	黒星病	14日前まで
㊦ イカズチWDG	66g	モモハモグリガ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで
(マイコシールド)	66g	せん孔細菌病	28日前まで

3. 留意事項

- ①せん孔細菌病の発生が心配無い場合はデランフロアブルに代えて、ダコニール 1000 の 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100ml)を使用してもよい。
- ②せん孔細菌病の発生が多い場合は、マイコシールド 1,500 倍(水 100ℓ 当り 66g)を加用散布する。ただし、収穫前日数が長いので、収穫時期の近い早生種への散布は注意して行う。

## 【第7回薬剤散布もも・ネクタリン薬剤防除共通】

1. 散布量:10a当り⇒500ℓ以上

2. 散布上の留意事項

- ①袋掛けに合わせて散布時期を早めてもよい。
- ②固着性展着剤アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍(水 100ℓ 当り 33 ml)を使用してもよい。ただし、最後に混用する。
- ③㊦イカズチWDGに代えて㊦スカウトフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ に 50ml)を使用してもよい。
- ④アブラムシ類・カイガラムシ類発生園は、コルト顆粒水和剤 2,000 倍(水 100ℓ に 50g・収穫前日)を加用散布する。カイガラムシ類対策として枝幹部にムラなく薬液を掛ける。

## ◆仕上摘果について

摘果は早く行なうほど果実肥大の効果は高いが、時として生理落果や核割れ果を生じるので摘蕾・摘花を含めた予備摘果と本摘果、さらに生理落果が終わり袋掛け時に見直し摘果をする3段階の着果管理が品質の良いものを揃えるために大切。

### 1. 本摘果

①時期・・・果形の良否がはっきり判別できる満開40～50日頃(5/末～6/月上旬頃)に行う。

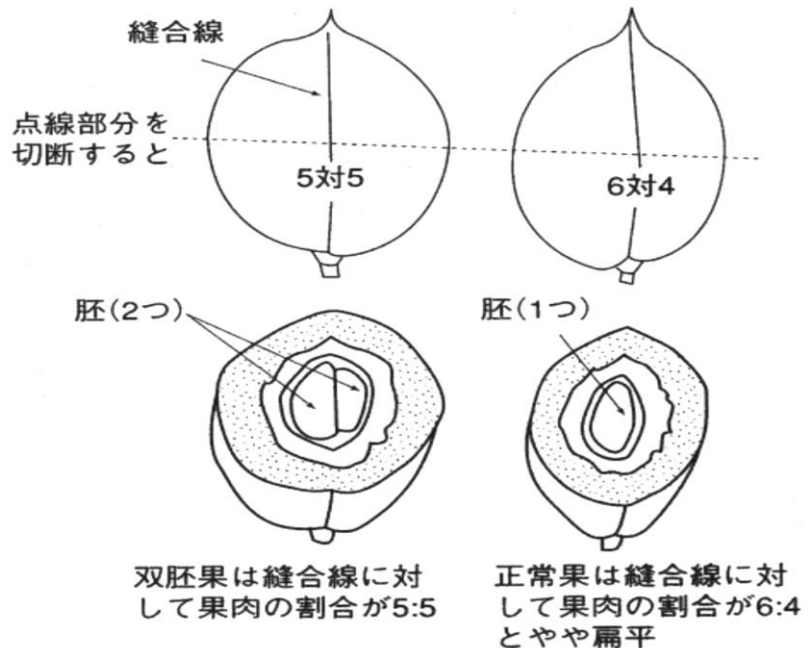
※満開後50日以降から硬核期となるため、核割れの多い品種ほど、摘果は避けたい。

②程度(結果枝別の摘果基準)

- ・長果枝で2個
  - ・中果枝で1個
  - ・短果枝5本で1個
- 大きい果実を残し、ガク片が残った発育不良果・変形果・病虫害被害果及び着果位置の悪いものを落とす。

③残す果実

- ・長手(ラグビーボール型)で大きく、正常な色沢の物を残す。
- ・左右均等に肥大した丸い果実は、双胚果であるので落とす。



### 2. 灰色かび病対策

果柄部に、がく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の基となる。結実よく、摘果が遅れると特に目立つため除去を徹底する。

## ◆ももうどんこ病並びにりんごうどんこ病(毛じ障害)について

	もも うどんこ病	りんご うどんこ病(毛じ障害)
発生時期	落花30日頃から (本年は5月下旬頃)	落花15日頃から(満開後20日後～25日頃) (本年は5月上中旬頃)
初期症状	白粉をまぶしたような円形の病斑 毛じ内に白粉が観察される 果皮に異常は見られない	淡褐色～褐色の小斑点 毛じは健全 果皮が淡褐色～褐色に変化
後期症状	菌そうは消え、毛じや果皮が褐変 着色期に目立たなくなる 一部でやや凹んだサビ状になる	被害部はサビ状となる 軽微なものは着色に より目立たなくなる

### ★発生した場合の対策

- ①果皮が既に大きく変色したものや、サビ状になっているものは摘果する。
- ②被害果が多い場合は、中でも程度の軽い果実や果柄部側(ホゾ側)のものを優先に残し、空枝にはせず、適正着果量を確保する。

## ◆新梢管理について

### 1. 芽かき

- ①徒長枝は無駄なエネルギーを使い、樹形も乱し良品生産のさまたげとなる。
- ②主枝・亜主枝の背面や大枝の切り口、さらに長・中果枝の基部10cmの直上芽は強勢な徒長枝となりやすいので、摘果に合わせてかき取り処分する。

## 2. 摘心

- ①枝の背面から出る芽(新梢)は全部をかき取るのではなく、必要に応じ捻枝や摘心処理して日焼け防止と結果枝確保に利用することが大切である。
- ②摘心は5月下旬と6月下旬の時期に5~7葉で切っておくとよい。

### ◆せん孔細菌病の春型枝病斑・灰星病を除去しよう！！

落花期より春型枝病斑の発生が散見されている。園地により、状況が異なるが、果実被害に至ると、商品化率に大きな影響を及ぼし、収量に影響するため、甚大な被害にならぬよう、対策を徹底する。

#### 1. 春型枝病斑と葉への感染症状の特徴

①春型枝病斑は開花期頃から現れ、芽基部がやや陥没し、薄い黒褐色を呈する。5月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は芽基部に発生し、陥没してひび割れる。ヤニを噴出することもある。

※枝先端に花腐れ・枝枯れしているものは、灰星病の可能性も高いが、せん孔細菌病である事もある。

いずれの場合でも、剪除は必要。

②葉では、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色~紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。

③果実での発病は、幼果ほど感染しやすく、ピンポン玉より大きくなると感染しにくくなる。



幼果での発病



葉での発病



《栽培に関する営農技術員への問合せ》

果樹総合情報・前回もも情報をご確認下さい。

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所): 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課: 299-3311